

## 日本で「人種差別をなくす会」として初めて大きな取り組みに挑戦

最近、日本のコミュニティは「人種差別をなくす会」<sup>1</sup>として初めて大きな取り組みに挑戦しました。東京郊外の幕張メッセで行われた「9条世界会議」という大きなイベントに参加しました。9条は戦争放棄を宣言する日本の憲法です。日本の政府はイラクに自衛隊を派遣するなど、この9条の解釈を次々と広げてしまいましたが、そのたびに市民グループが反対してきました。改憲に向けた国民投票を可能とする法律も昨年議会を通りました。この会議は平和団体の連携によって、9条の国際的な意義と日本市民の幅広い支持をアピールするために開かれました。

私たちはリスニングプロジェクト<sup>2</sup>の経験があまりなく、準備する期間も短かったのですが、この大事な機会を逃したくないと思いました。約3ヶ月のあいだに次のことをなんとかやり遂げることができました。

- プロジェクトチームを編成した。
- サポートグループやプロジェクトに取り組むチームを日本各地で立ち上げた。
- どのようなかたちでこのイベントに参加するかについて決めた。
- 宿泊先やワークショップを開く会場を見つけた（残念ながら、このイベントを知った時点では会場内の部屋を申し込む締切が過ぎたあとだった）。
- チラシをつくった。
- 参加者やサポーターを集めた。

この会議に参加することを提案した当初は、一緒に参加してくれる人はせいぜい5、6人だろうと予想していました。しかし実際に UER として参加したのは27人、サポーターもたくさん来てくれました。UER として参加できなかった RGer もイベントのボランティアとして参加しました。

会議は二日間に渡りました。大きな会場でのスピーチ、小さな会場でのワークショップ、いろんな団体のブースが並んでいる会場がありました。私たちにも小さなブースがありました。イベントが始まる前はこんなに狭くてプライバシーのないところにはだれも話をしに来ないと心配する人もいましたが、それは無用の心配でした。私たちのところに話しに来る人は二日のあいだとぎれることがなかったのです。私たちはワークショップに参加したり、他のブースにいた人たちと話したりもしました。「あなたが止めたたい戦いは何です

---

<sup>1</sup> United to End Racism (UER)

<sup>2</sup> RC のリスニングプロジェクトでは、何人かのコ・カウンセラーが公共の場に行き、質問の書いてある看板などを使ってまわりの人たちにあるテーマ（たとえば人種差別、戦争、気候変動など）について話すように誘います

か？」といった質問をからだに掛けたサンドイッチマン<sup>3</sup>もいました。私にとって、会場を歩きながらあちこちで自分たちのチームが話を聴いている場面を見たことがハイライトの一つでした。

しかし私たちが行ったもっとも重要な活動の一つは、まったく計画外に行われました。9条会議が主催者の予測を超えて成功を収め、初日に1万人の参加者がやってきたのですが、会場は7千人規模だったため3千人が入り切れなかったのです。その多くは前売り券を買ったり、遠くから来たりしていた人たちでした。なかには、その多くがボランティアであるイベントのスタッフに対して怒りをぶつけた人たちがいました。そこで日本のRCコミュニティのRRP（大地域照会者）である安積遊歩は、車いすの上に乗し、入場を待つ人たちを前に即興の演説をしました。「私たちはみな平和を支持するためにやって来たのです。こんなにたくさんの方がその目標を持って集まったことは素晴らしいことです。チケットの払い戻しを求めるより主催者に感謝を伝え、そのお金を寄付しましょう」と。これを聞いてもっと怒った人たちもいましたが、私たちメンバーはそうした人たちの話を一生懸命に聴きました。しかし遊歩の話から感銘を受けた人たちもいました。ある男性は「この人が本当のことを言っている」とチームの一人に言いました。そこでの私たちの行動は会議の参加者たちに、あとで私たちが感謝の気持ちを伝えるに行った主催者たちに、そしてもちろん私たち自身に大きな影響を与えたと思います。

会議の最終日と翌日に私たちは体験クラス<sup>4</sup>を計3回開きました。クラスを会議の一部として開けなかったため、参加者を集めることは簡単ではありませんでした。しかしブースやクラスで会った何人かの人とは、その後も連絡とっています。

私たち全員がこのイベントに参加することで力をもらったと思います。自分にできることに驚いた人もたくさんいました。いろいろな人がその経験について書いています。何人かの方は、自分の決断力と柔軟性に信頼がおかれていたこと、そして一人で行動する必要がまったくなかったことがとても良かったと言っています。「こんな風に仕事したことがあったらどうか...？」と一人の参加者は書きました。日本で一番抑圧されているグループの一つである在日コリアン出身のヤングアダルト宣ちんにゆが、この日本憲法を中心とするプロジェクトで大きくリーダーシップをとったことは、私たちのコミュニティに大きな意義をもたらしたと思います。

日本のコミュニティは最近、戦争の傷を癒すことに取り組み始めています。11月には

---

<sup>3</sup> サンドイッチマンとは、大きな看板を掛けて歩く人

<sup>4</sup> 体験クラスとは、再評価カウンセリングを始めての人たちに紹介するためのクラス

ジュリアン・ワイスグラス<sup>5</sup>がこのテーマでワークショップを開きます。この「人種差別をなくす会」のプロジェクトは私たちにとってたいへん重要な一歩でした。プロジェクトが行われている最中にも、次はいつできるかなと聞いている人がたくさんいました。おそらくこの取り組みはこれからも長く続けられるでしょう。

この記事は人種差別をなくすことに取り組んでいる RCer のメーリングリストに載せられたものです。

The First Large-Scale Japanese UER Project

プレゼントタイム2008年7月号、51 - 53ページより

Emma Parker

エマ・パーカー（参加者全員を代表して）

この記事の和訳： 高坂明雄、エマ・パーカー

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります。（翻訳文 2008 年。原文 2008 年）。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。

---

<sup>5</sup> ジュリアン・ワイスグラスは、世界変革の国際照会者